








会 告



「農業土木学会学術基金」の募金について.....80
 平成 18 年度農業土木学会学術基金援助希望者募集について80
 第 8 回中央講習会開催について 80
 第 38 回中央研修会開催について 81
 第 11 回中央研究集会の開催について 81
 農業土木学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてお願い.....82
 農業土木技術者継続教育機構による通信教育の試行について.....82
 土地改良事業設計指針「ため池整備」の発行について.....83
 国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のごお願いと国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」の
 配布について.....83
 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと編集事務局（投稿先）の韓国移転のお知らせ...84
 農業土木学会誌への投稿お待ちしております！小特集以外の投稿も歓迎します.....86
 身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!「農業土木学会誌」平成 19 年秋季～冬季用の表紙写真の募集87
 新シリーズ「水利遺産探訪」スタート 皆様のご投稿を大募集中88
 水土文化研究部会第 3 回研究会の開催（第 2 報） 89
 平成 18 年度農村計画研究部会第 28 回現地研修会のお知らせ（第 1 報） 89
 水資源シンポジウムの開催について（第 2 報） 89
 農業土木学会論文集第 241 号内容紹介.....91
学会記事.....94

農業土木学会（本部）行事の計画

農業土木学会（本部）行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちいたしております。
 のマークが付されているものは農業土木技術者継続教育認定プログラム、または認定申請中を表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成 18 年 2 月 27 日	行事企画委員会	第 8 回中央講習会 	農業・農村分野の展開方向 環境・資源・生態系の保全・ 創出とその課題	東京大学弥 生講堂	74 巻 1 号 2 号
平成 18 年 3 月 15 日	行事企画委員会 (独) 農業工学研究所	第 11 回中央研究集会 	21 世紀における農村地域資源 の管理の方向(仮)	農林水産技術 会議事務局筑 波事務所	74 巻 2 号
平成 18 年 3 月 22 日	行事企画委員会	第 38 回中央研修会 	農地・農業用水等の資源保全 と新しい地域づくり	東京大学弥 生講堂	74 巻 1 号 2 号
平成 18 年 8 月 8～11 日	大会運営委員会	平成 18 年度農業土木学会大会講演会 		宇都宮大学	73 巻 12 号 74 巻 1 号

農業土木学会関連行事予定

平成 18 年 2 月 24 日	水土文化研究部会	第 3 回水土文化研究部会 	先人達の「水土の知」もの・ ひと・こころ	虎ノ門パス トラル	74 巻 1 号
平成 18 年 9 月 7 日, 8 日	農村計画研究部会	平成 18 年度第 28 回現地研修会 		熊本テルサ ホール	74 巻 2 号

第 74 巻 3 号予定

展望：生源寺 眞一

小特集：地域の資源保全と農業土木

地域資源としての農業農村環境の改善のための政策のあり方について 滋賀県の取組みを事例として：荘林 幹太郎

農村活性化の取組みを通じた地域資源の保全に関する分析：國光 洋二他

大規模地震時における農業水利施設の利活用について：近藤 文男他

地域の資源保全の担い手「土地改良区」の強化と合併問題：郷古 雅春他

技術リポート

北海道支部：粘性特性からみたスラリー処理施設設計における留意点：寺山貢平他

東北支部：地域住民参画による農業水利施設の管理（アドプト）について：金野盛志

関東支部：小動物用脱出スロープの機能向上実験：坂本義浩他

京都支部：センチピードグラスによる畦畔・法面管理省力化への取組み：谷口和行

中国四国支部：積層円盤フィルター式除塵機の設置について：川上英樹他

九州支部：浜ノ瀬導水トンネルにおける TBM 工法について：佐々木正恕他

講座：水土文化への誘い（その 1）：「水土文化」とは何か 水土の知 の視角から：広瀬 伸

小講座：地域資源：村岡 宏

私のビジョン：地域資源管理のために農業土木技術者に求められるもの：島 武男

論文をかたる：しばれる！融雪期のフィールドワーク：岡澤 宏

「農業土木学会学術基金」の募金について

農業土木学会は、農業土木の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本の農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業土木学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設、上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等によることとしてきました。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成17年度までに40件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000円(何口でも可)

法人会員一口 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行日比谷支店

普通預金 No.1569058 口座名 (社)農業土木学会学術基金

郵便振替：00140 2 54031 加入者名 農業土木学会学術基金

平成18年度農業土木学会学術基金援助希望者募集について

学術基金運営委員会

農業土木学会では、平成3年度に学術基金制度を設け、毎年援助事業を実施してまいりました。

平成18年度は、規定第4条(1)の「特定の分野および学際的分野に関する調査・研究の推進」、(2)の「農業土木学の国際交流の推進」、(3)の「若手研究者の育成」の援助を実施いたします。

援助を希望される方は、学会ホームページで申請書様式をダウンロードして、E-mailで学会事務局までお申込下さい。

記

1. 援助の対象：農業土木学会の会員(学生会員含む)、または会員によって構成されるグループ

2. 援助方針

- (1) 農業土木に関して特定の分野および学際的分野に関する調査・研究の推進に寄与と思われる研究について援助する。
- (2) 平成18年度中(平成18年4月から19年3月)に海外で

開催される国際学術会議への出席費用の一部を援助する。なお、自ら研究発表等を行う若手会員とする。ただし、発表が国際会議の主催者から受理されていない場合でも、申請は受け付ける。この場合は受理を条件として援助の可否について決定を行う。

(3) 若手研究者の研究に対して援助する。

3. 1件当たりの援助金の目安 1件15万円程度を限度とする。
4. 申請締切 平成18年3月22日
5. 報告の義務 援助を受けた者は、学会誌に記事を投稿する。
6. 申込み・問合せ先

〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4

(社)農業土木学会学術基金運営委員会

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

E-mail:suido@jsidre.or.jp

平成17年度第8回中央講習会

農業・農村分野の展開方向 環境・資源・生態系の保全・創出とその課題

～地域における新たな取組み～

行事企画委員会

農業土木技術者継続教育認定プログラム



本年度の中央講習会は、下記により開催されます。奮ってご参加下さい。お申込みは学会HP(<http://www.jsidre.or.jp>)の申込様式をご利用下さい。

記

1. 主催 農業土木学会行事企画委員会
2. 期日 平成18年2月27日(月)10:00～17:00
3. 場所 東京大学弥生講堂一条ホール(文京区弥生1-1-1)

4. プログラム(予定)

- 開会挨拶 農業土木学会副会長(行事企画委員長) 松浦 良和
 10:10～11:20 基調講演 農業・農村分野の展開方向
 宇都宮大学教授 水谷 正一
 11:20～12:00 講演 関東支部
 小動物用脱出スロープの検証と機能向上実験
 (独)緑資源機構計画評価部環境課 坂本 義浩

- | | |
|---|--|
| <p>13:00~13:40 講演 京都支部
魚のゆりかご水田プロジェクト
滋賀県農政水産部農村振興課 田中 茂穂</p> <p>13:40~14:20 講演 九州支部
田んぼの生きもの調査の事業計画への反映について
長崎県島原振興局農林部土地改良班
山本 泰彦</p> <p>14:20~14:30 休憩</p> <p>14:30~15:10 講演 北海道支部
酪農村における新しいエネルギー開発
(独)北海道開発土木研究所 大久保 天</p> <p>15:10~15:50 講演 東北支部
地域住民参画による農業水利施設の管理について</p> | <p>て 岩手県農林水産部農村建設課 千葉 剛</p> <p>15:50~16:30 講演 中国四国支部
ほ場整備を契機とした集落農場型農業生産法人の取組について「さわやか田打」
広島県尾三地域事務所農林局広島中部台地総合開発事業所 小谷 太志</p> <p>16:30~17:00 意見交換
閉会挨拶</p> <p>5. 定員 150名程度</p> <p>6. 参加費 一般 4,000円, 会員割引 2,000円,
学生会員割引 1,000円</p> <p>7. 申込・問合先 行事企画委員会担当 吉本
☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494</p> |
|---|--|

平成 17 年度第 38 回中央研修会
農地・農業用水等の資源保全と新しい地域づくり
～ふるさとの資源の再発見～
行事企画委員会

農業土木技術者継続教育認定プログラム



本年度の中央研修会は、下記により開催されます。多数のご参加をお待ちしております。お申込みは学会 HP (<http://www.jsidre.or.jp>) の申込様式をご利用下さい。

記

1. 主催 農業土木学会行事企画委員会
2. 期日 平成 18 年 3 月 22 日 (水) 10:00~16:30
3. 場所 東京大学弥生講堂一条ホール (文京区弥生 1-1-1)
4. プログラム (予定)
10:10~11:50 基調講演 「ふるさとの資源の再発見」
東京大学大学院教授 林 良博
- 13:00~14:00 事例報告

- 農林水産省農村振興局事業計画課長 角田 豊
- 14:00~15:00 研究所報告「資源保全に関する技術開発の現状と方向」
(独)農業工学研究所地域資源部長 高橋 順二
- 15:15~16:30 「いただきます」がつなく「いのちの環」
作家・エッセイスト 森 久美子
5. 定員 150名程度
 6. 参加費 一般 5,000円, 会員割引 3,000円,
学生会員割引 1,000円
 7. 申込・問合先 行事企画委員会担当 吉本
☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

平成 17 年度第 11 回中央研究集会
21 世紀における農村地域資源の管理の方向
(社)農業土木学会・(独)農業工学研究所

農業土木技術者継続教育認定プログラム



現在、農村地域においては、過疎化、高齢化の進行が進んでおり、従来から農村地域で維持、保全されてきた農業水利施設、農地、農村環境・文化資源の荒廃が懸念されています。平成 17 年度中央研究集会では、農業工学研究所が主体に実施した「多面的機能の維持向上のための農業水利施設の維持管理体制の確立」に関する研究成果を広く行政担当者、研究者および現場で実際に施設を管理している土地改良区関係者等に紹介します。多数の参加をお待ちします。

記

1. 主催 (社)農業土木学会・(独)農業工学研究所
2. 日時 平成 18 年 3 月 15 日 (水) 13:00~17:00
3. 場所 農林水産技術会議事務局筑波事務所農林ホール
茨城県つくば市観音台 2-1-9
4. 参加費 無料
5. プログラム (予定)
(1) 話題提供「農業水利施設の維持管理の方向」

(2)プロジェクト研究の概要

(3)研究報告

- 1)社会経済情勢の変化が農業水利施設の維持管理組織及び維持管理水準に与える影響の解明
- 2)農業水利施設の維持管理水準の低下が下流域での洪水防止、水質等に与える影響の定量化
- 3)農業水利施設の維持管理組織の再編手法及び財政的支援手法

の確立

(4)総括

6. その他

- (1)参加希望者は当日受付へおいで下さい。
- (2)宿泊については各自ご手配願います。
今回の研究集会は、農業工学研究所研究会(3月15日～16日に開催)との同時開催となります。ご了承下さい。

農業土木学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

農業土木学会災害対応特別委員会

農業土木学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地に発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しました。

この災害対応特別委員会では、農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害、学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害、に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備することとしました。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるように、事前に皆様方の登録をお願いしておくことといたしました。登録を希望された会員は、災害対応調査団候補者名簿(2年毎更新)に記載して、緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は以下のとおりです。

調査団の団員は、高度な専門知識を有する農業土木学会員とする。

調査団員は、候補者名簿にリストアップされた者から選定する。

調査団の派遣期間は、原則2～3日とする。

調査団派遣に関わる旅費は、農業土木学会が後日精算する(年度予算限度額300万円)。

調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。

調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局宛 FAX 03 3435 8494, E-mail saigai@jsidre.or.jp でお申込み下さい。様式は農業土木学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)よりダウンロードし、お申込下さい。多数の応募をお待ちしております。

専門分野： 水理， 水文・気象， 土壌物理， 土質， 地質・地理， 環境， 地域(農村)計画， 一般， 灌漑排水， 農地造成， 農地整備， 農地保全， 水産土木， 材料・施工， 農業機械， 集落排水， その他

なお、登録頂いた個人情報、は、災害対応調査団にのみ活用し、適切に取扱います。

農業土木技術者継続教育機構による通信教育の試行について

農業土木学会行事企画委員会

農業土木技術者継続教育機構通信教育部会

1. 趣旨

農業土木技術者継続教育制度は、学会、機構双方に入会している方のCPD取得機会を増加させることを目的として、農業土木学会誌を活用した通信教育の実施を検討し、本格的な通信教育を視野に入れた試行を平成17年10月より行っています。

2. 具体的な方法

(1)開始時期と試行期間

学会誌に毎号問題を掲載し、メールにて回答する方法で、平成17年10月号より開始し、6カ月間(18年3月まで)試行を行っています。

(2)参加会員の募集

この試行に参加をご希望の学会員の方は、農業土木学会のホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)にある**参加申込書**に必要事項を記載してメール(E-mail:cpd@cpd.jsidre.or.jp)あるいはFAX 03 5777 2099へ送信してください。

今回の試行が成功し、本格運用へ移行するためには、多くの会員の参加が必要です。しかし現在、少数であり本格実施のために、周囲の方に声をかけていただき、多数のご参加をお願いします。

なお、今回は試行であることから、参加会員としての経費は不要ですが、本格運用の場合は、実費をご負担いただく方向で、検

討中です。

各号ごとに、点数相応のCPD単位を付与し、次年度のCPD登録に自動的に加算します。

なお、これを機会に農業土木学会、機構への入会を希望される方は、同様にホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>) に申込み様式がありますので、ご記入の上お申込み下さい。

(3) 申込期限

この試行への参加は、今年からでも可能です。短期間であっても参加し、意見をお寄せ下さい。

(4) 試行の事務局

試行の事務局は機構の評価委員会内部に設置する試行部会および機構事務局が担います。

(5) 試行の内容

毎号学会誌に3カ月前の学会誌の報文を主体に機構試行部会が作成した問題を掲載します。

問題は択一式とし、毎回20問を掲載します。一つの報文から数問、報文の事実的内容から問題を作成します。

回答は、メールにて機構へ返信し、採点結果から7割正解で1CPD、満点で1.5CPDをが与えられ、継続教育記録として登録されることとなります。

回答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

(6) 試行の評価と本格運用への移行

試行の結果より、課題、改善点等を把握し、修正を加えた上で本格運用に移行したいと考えています。

土地改良事業設計指針「ため池整備」の発行について

このたび、標記土地改良事業指針が改定され、平成18年2月に発行されることとなりました。判型、ページ数、価格は下記のとおりです。ご希望の方は下記までお申込み下さい。なお、改定の趣旨は、本誌p.62を参照下さい。

記

1. 土地改良事業設計指針「ため池整備」

A4判 約230ページ

定 価 3,000円(消費税内税,送料学会負担)

2. 申込方法

役所等で、公用として購入される場合

FAXでお申込下さい。様式は問いません。

ご希望部数、送付先住所、請求書の宛名をご記入下さい。

個人、会社で購入される場合

現金書留：書籍代と書籍名、冊数を書いた文書をご同封下さい。

郵便振替(00160 8 47993): 振替用紙の通信欄に書籍名、冊数をご記入下さい。

3. 申込先

〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4

(社)農業土木学会事務局 担当:河合

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

**国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」の配布について**

農業土木学会では、2003年1月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して、新たな国際学会(国際水田・水環境工学会; International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES)を設立、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2005年12月末にはVol.3 No.4が発刊されました。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関する研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方が国際学会へ入会されることを望みます。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理,水収支,灌漑施設,栽培管理)
- ② 排水(排水管理,排水施設)

- ③ 土壌保全(土壌改良,土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発,水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節,地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生,陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画(農村計画,土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム(水田農業と水環境,土壌環境,気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用(田畑転換,施設園芸)
- ⑩ 農業政策(農村振興,条件不利地の支援策など)

水田農業を通じた国際的な研究交流、情報交換の場として、皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと、会員には国際ジャーナルが、無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag社(ドイツ)

発刊スケジュール：2003年3月創刊，以後3カ月ごと

国際学会会費：正会員 12,000円/年/4冊(送料等学会負担)

学生会員(院生含む) 8,500円/年/4冊(送料等学会負担)

申込先：農業土木学会編集出版部 吉武宛

ホームページ：http://www.jsidre.or.jp

入会のお申込みは，学会HP(<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>)の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ，メールまたはFAXでお申込みいただけます。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 編集事務局(投稿先)の韓国移転のお知らせ

農業土木学会では，2003年1月に日本，韓国，台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して，新たな国際学会(国際水田・水環境工学会；International Society of Paddy and Water Environment Engineering)を設立し，機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊，2005年12月末にはVol.3 No.4が発刊されました。

我が国においても学術誌の評価に，SCI(Science Citation Index)のIF(Impact Factor)が利用されており，本国際ジャーナルでもIFの取得により高い評価の定着を目指しています。

また，世界13カ国からEditor(13名)を選出することにより，国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし，さらに国際的な流通を考慮して，国際出版社として著名なSpringer Verlag社からの刊行です。

掲載論文は，Review，Article，Technical ReportおよびShort Communicationの4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに，SCI獲得のために年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りますが，投稿料，掲載料などを無料として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

編集事務局の移転：2003年1月の学会設立以来，農業土木学会が編集事務局を担って参りましたが2006年1月1日からは新Editor in Chief；中野芳輔九州大学教授の下，韓国農業工学会が今後3年間(～2008年12月31日まで)，編集事務局を担当することとなりました。

これに伴い，Editorial Panelの構成メンバー(編集体制)および新投稿先が下記ようになります。

ただし2005年12月末までに投稿された原稿は，日本(農業土木学会)の責任において進められ，Acceptされたものが韓国事務局へ引き渡されることとなっております。

皆様方の多数の投稿を期待しております。

新投稿先：PWE Chief Managing Editor, Dr. Soon-Jin HWANG
International Society of Paddy and Water Environment Engineering (PAWEES)

KOFST - Main Building #205

635-4 Yeoksam-Dong, Kangnam-Gu, Seoul 135-703, Korea.

Tel : +82 2 562 3627, 562 3613 Fax : +82 2 565 6821

Email : sjhwang@konkuk.ac.kr, pawees@ksae.re.kr(will be made shortly)

(During Jan.2006 to Dec.2008)

編集方針：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は，水田農業地帯における灌漑と排水，土壌保全，土地資源や水資源の保全と管理，水田の多面的機能，農業政策，地域計画，バイオ環境システム，生態系の保全，水田保全，田畑輪換等 である。

編集体制 2006.1.1～2008.12.31)

• Editor in Chief : Prof. Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironment Sciences, Kyushu University, Japan

• Editors

Prof. Dr. Sietan CHIENG

Department of Civil Engineering, University of British Columbia, Vancouver, Canada

Prof. Dr. Budi Indra SETIAWAN

Department of Agricultural Engineering, Bogor Agricultural University, Bogor, Indonesia

Prof. Dr. Mauro GREPPI

Institute of Agricultural Hydraulics, University of Milan, Milano, Italy

Prof. Dr. Shuichi HASEGAWA

Graduate School of Agriculture, Hokkaido University, Sapporo, Japan

Prof. Dr. Makoto KIMURA

Graduate School of Bioagricultural Sciences, Nagoya University, Nagoya, Japan

Prof. Dr. Chun Gyeong YOON

Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea

Dr. Shahid AHMAD

Natural Resources Division, Pakistan Agriculture Research Council (PARC) Islamabad, Pakistan

Dr. Huang GUANHUA

Chinese-Israeli International Center for Training in Agriculture, China Agricultural University, Beijing, P. R. China

Dr. To Phuc TUONG

Crop, Soil and Water Sciences Division, International Rice Research Institute (IRRI) Metro Manila, Philippines

Prof. Dr. Luis Santos PEREIRA

Institute of Agronomy, Technical University of Lisbon, Lisbon, Portugal

Prof. Dr. Ming-Daw SU

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

Dr. Meredith GIORDANO

International Water Management Institute (IWMI) Colombo, Sri Lanka

Prof. Dr. Tawatchai TINGSANCHALI

School of Civil Engineering, Asian Institute of Technology (AIT) Pathumthani, Thailand

Prof. Emeritus Dr. Kenneth K. TANJI

Department of Land, Air and Water Resources, University of California, Davis, U.S.A.

• Editing Board

Dr(Ms) Elizabeth HUMPHREYS

CSIRO Land and Water, Griffith, Australia.

Mr. Aly M. SHADY

Natural Resources Division, Canadian International Development Agency (CIDA) Quebec, Canada

Mr. Brent PATERSON

Food and Rural Development Agriculture Centre, Alberta Agriculture, Alberta, Canada

Dr. Satyanto Krido Saptomo

Department of Agricultural Engineering, Bogor Agricultural University, Bogor, Indonesia

Prof. Dr. Ettore CAPRI

Institute of Agricultural and Environmental Chemistry, Catholic University of Holy Heart, Piacenza, Italia

Prof. Dr. Aldo FERRERO

Department of Agronomy, Forest and Land Management, University of Turin, Grugliasco, Italy

Prof. Dr. Akira GOTO

Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Utsunomiya, Japan

Dr. Yuji KOHGO

National Institute for Rural Engineering (NIRE) Tsukuba, Japan

Prof. Dr. Masayoshi SATOH

Institute of Agricultural and Forestry Engineering, University of Tsukuba, Tsukuba, Japan

Prof. Dr. Kazuhiro TAKAGI

Department of Environmental Chemistry, National Institute for Agro-Environmental Sciences (NIAES) Tsukuba, Japan

Prof. Dr. Joong Dae CHOI

Division of Agricultural Engineering, Kangwon National University, Chuncheon, Korea

Prof. Dr. Jin Soo KIM

Department of Rural Engineering, Chungbuk National University, Cheongju, Korea

Dr. Song-Bae KIM

Department of Landscape Architecture and Rural System Engineering, Seoul National University, Seoul, Korea

Ir. Dr. M. S. M. AMIN

Department of Biological and Agricultural Engineering, University Putra Malaysia, Serdang Selangor, Malaysia

Prof. Dr. Tahir HUSSAIN

Faculty of Agriculture, University of Agriculture, Faisalabad, Pakistan

Prof. Dr. Muhammad LATIF

Centre of Excellence in Water Resources Engineering (CEWRE) University of Engineering and Technology, Lahore, Pakistan.

Prof. Dr. Heping HU

Department of Hydraulic Engineering, Tsinghua University, Beijing, P. R. China

Prof. Dr. Jiasheng HUANG

College of Water Resources and Hydropower Engineering, Wuhan University, Wuhan, P. R. China

Prof. Dr. Yuanhua LI

National Center of Irrigation and Drainage Development (NCIDD) Ministry of Water Resources, Beijing, P. R. China

Dr. Jifu YANG

Department of Irrigation and Drainage, China Institute of Water Resources and Hydropower Research (IWHR) Beijing, P. R. China

Dr. (Ms) Kam Suan PHENG

Social Sciences Division, International Rice Research Institute (IRRI) Metro Manila, Philippines

Prof. Dr. Ming-Hsi HSU

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,

National Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China
 Dr. Ming-Hua TSAI
 Department of Irrigation and Engineering, Council of Agriculture Executive Yuan, Taipei, Taiwan, Rep. of China
 Prof. Emeritus Dr. Ru-Yih WANG
 Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China
 Dr. David MOLDEN
 Irrigation and Water Resources Program, International Water Management Institute (IWMI), Colombo, Sri Lanka
 Mr. Jean-Luc SAUTIER
 Swiss Federal Office for Agriculture, Berne, Switzerland
 Dr. Bancha KWANYUEN
 Faculty of Engineering, Kasetsart University, Nakhonpathom, Thailand
 Dr. Varawoot VUDHIVANICH
 Faculty of Engineering Kamphaengsaen, Kasetsart University, Nakhonpathom, Thailand
 Dr. James E. HILL
 Department of Plant Science, University of California, Davis, U.S.A.
 Prof. Emeritus Dr. Gilbert LEVINE
 Center for International Studies, Cornell University, Ithaca, U.S.A.

Dr. V. R. REDDY
 Alternate Crops and Systems, USDA-ARS, Beltsville, U.S.A.
 Dr. Lawrence J. SCHWANKL
 Department of Land, Air, and Water Resources, University of California, Davis, U.S.A.
 • Managing Editors
 Chief Managing Editor : Dr. Soon-Jin HWANG
 Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea
 Dr. Yutaka MATSUNO
 Faculty of Agriculture, Kinki University, Nara, Japan
 Dr. Masaru MIZOGUCHI
 Department of Global Agricultural Science, University of Tokyo, Tokyo, Japan
 Prof. Dr. Tsugihiko WATANABE
 Research Institute for Humanity and Nature (RIHN), Kyoto, Japan
 Prof. Dr. Ke-Sheng CHENG
 Department of Bioenvironmental System Engineering, National Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China
 出版社 : Springer Verlag 社 (ドイツ)
 投稿資格 : 筆者全員が国際学会員であること。
 投稿要領等 : <http://www.jsidre.or.jp> に詳細を記載しています。

農業土木学会誌への投稿お待ちしております！小特集以外の投稿も歓迎します

農業土木学会誌編集委員会

74巻の小特集テーマのお知らせと報文原稿の募集

小特集のテーマに沿った原稿を、次表に従って広く会員から募集いたします。

また、今後取上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集のテーマは仮題となっておりますので、予告なく変更することがございます。特集の趣旨をお読みいただいた後、公募原稿要旨を学会誌編集委員会あてにお送りください。

採用された原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4 (社) 農業土木学会 学会誌編集委員会あて

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494 E mail henshu@jsidre.or.jp

学会誌 74 巻の小特集・特別企画のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1 500 字以内)	原 稿 締 切 (刷り上げ 4 ページ厳守)
74 巻 4 号 美しい里づくり 景観法施行を背景として	公募終了	平成 17 年 11 月 15 日
5 号 農業土木の国際化のあゆみ(仮)	公募終了	平成 17 年 12 月 15 日
6 号 大会関連 関東支部(仮)	公募なし	
7 号 湿原・湿地の管理と環境保全(仮)	公募終了	平成 18 年 2 月 15 日
8 号	公募なし	
9 号 圃場整備と農業生産法人(仮)	平成 18 年 2 月 24 日	平成 18 年 4 月 14 日
10 号	公募なし	
11 号 環境配慮とモニタリング(仮)	平成 18 年 4 月 25 日	平成 18 年 6 月 15 日
12 号	公募なし	

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業土木学会ホームページに掲載の「農業土木学会誌投稿要項」、
「農業土木学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

74 巻 9 号テーマ：「圃場整備と農業生産法人」(仮)

昨年 3 月に策定された「新たな食料・農業・農村基本計画」では、支援を担い手に集中化・重点化して望ましい農業構造を確立すること、農業の構造改革に資するほ場の大区画化等の基盤整備を推進して食料供給力の確保を図ることなどが明確にされたところです。

特に、構造改革が立ち後れている水田農業においては、生産性の高い水田を確保する圃場整備を契機として担い手の育成・確保、担い手への農地の利用集積を一体的に進めることにより、地域水田農業のビジョンの実現に資することが期待されています。

「担い手」と言えば地域農業で中核的な役割を担う個別農業経営が中心となりますが、食料供給力の脆弱化や国際化の進展といった我が国農業の取り巻く情勢の変化を受け、より強靱な経営基盤を確保し得る農業生産法人や集落を基礎とした営農組織の設立など、多様な形態の担い手の育成に向けて政策支援の充実も図られているところです。

そこで、構造政策としての基盤整備のあり方についての議論を更に深めるとの観点から、今後の圃場整備のあり方及びこれを通じた農業生産法人の育成というテーマに焦点を当てた報文特集を企画することとし、かかるテーマについての研究、技術、事例紹介などを広く募集致します。

「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の勤める本」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の勤める本」を設け、随時募集しております。多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするとともに、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと考えております。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

オフィス便りは、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」、「技術者継続教育」・「技術力の向上」・「技術者倫理」など。

キャンパス便りは、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるものを募集しています。奮ってご投稿ください。

原稿の長さは、刷り上がり 1 ページ(1 800 字程度)で、写真を 1~2 枚程度入れてください。

「私の勤める本」は、原稿の長さ：1 200 字 (写真・体裁等含む)

刷り上がり 1 ページ以内 (原稿には表紙の写真を含めて下さい。)

身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!! 「農業土木学会誌」平成 19 年秋季～冬季用の表紙写真の募集 農業土木学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では、平成 19 年も皆さまからの写真で表紙を飾ることとしました。テーマは「水利遺構：先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美」とします。

下記の要領で学会誌第 75 巻(平成 19 年 1~12 月号)のうち、特に秋季～冬季の表紙写真を募集します。ふるってご応募ください。

記

1. 趣旨

これまで農業土木技術による構造物は、過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人々の生活を支えてきました。これら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、それぞれの機能を十分に発揮しながら年月を重ねていくことで、水を制御するという力強さに、そして周囲の自然景観にとけ込むことで、その美しさに磨きがかかってきます。

先人たちが遺してくれた多くの構造物の中には、かけがえのない風景を生み出す文化遺産とも言うべき名高いものもありますが、私たちが身近で目にする農村地域にも、規模は小さくとも凛として美しい文化的な技術遺構がいくつも存在しています。

皆さんの目にとまった構造物で、「先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美」を、学会誌の表紙写真で紹介ください。

2. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで（デジタルカメラの場合はJPEG ファインモードまたはTIFF モードに設定し、撮影してください。入選の際にはデジタルデータをお送りいただく場合があります。組写真の場合は、そのことを明記してください。

3. 枚数

応募写真には制限がありませんが、未発表のものに限りです。

4. 締切 平成 18年 3月 31日（秋季～冬季の写真）

5. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、今年は募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。ご注意ください

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、水利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれる（花

などの情緒物に埋没しない）、デジタル画像の場合で解像度が不十分で表紙に拡大してドット崩れしない、ことが採用の条件となります。

6. 審査

審査委員会（編集委員と写真家）で選びます。

7. 結果発表

学会誌 75 巻 1号で入賞者と掲載号を発表し、入選作品は、平成 19 年度大会会場でパネル展示します。

8. 賞品

入選作品 1 点につき 3 万円（表紙掲載料含む）。応募者には記念品をお送りします。

9. 応募資格

学会員でなくとも結構ですので、周囲の方々にもお勧めください。

10. その他

応募写真の裏面にタイトル、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影月日、撮影データ（フィルム、使用カメラ等）を記入して下さい。対象物の名称（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明（いつ、だれが、どうして等）もお寄せ下さい。

原則として、応募写真は返却いたしません。なお、入選作の著作権は、(社)農業土木学会に属します。

11. 宛先

〒105 0004 東京都港区新橋 5 - 34 - 4 (社) 農業土木学会
農業土木学会誌編集委員会「表紙写真公募」係

新シリーズ「水利遺産探訪」スタート

皆様のご投稿を大募集中！

農業土木学会編集委員会

農業土木学会誌ではこのたび新シリーズ「水利遺産探訪」を開始し、第 1 弾として会員の松本（独）農業工学研究所理事が投稿された「(京都の)桂川「一の井堰」物語」を掲載することとなりました。つきましては、本シリーズに掲載する原稿を広く会員の皆様から募りたいと考えておりますので、奮ってご投稿いただくようお願い申し上げます。

わが国では、古来、先人の知恵と努力により多くの農業土木に related 水利施設が造成されてまいりました。「温故知新」という言葉がありますが、「農業土木」を改めて知るために、ふるき水利遺産をたずね、先人の歩んだ道をふりかえることは重要なことであると考えています。そして、ふるき水利遺構にこめられた先人の「水土の知」を、未来で活かしていくための「未来へのメッセージ」としてまとめていきたいと考えております。

また、海外協力の分野においては、土地改良区を中心とする日本の灌漑排水システムが良きモデルとして注目されており、海外で日本の経験を如何に適應させるかが求められています。そのためにも、我々の先人の知恵と経験を他国で活用できるように整理することが必要になっていきます。

農業土木学会では、過去、「水土を拓いた人びと」を発刊した他、石狩川、北上川等の各水系農業水利誌（史）を発行してまいりました。今回のシリーズでは、幅広い会員の方に親しまれる内容のものを目指したいと考えており、取り上げる内容についても、構造物だけに限らず計画や人物などに焦点をあてたものも含めて幅広いものにしていきたいと考えております。

ご投稿は会員の皆様が書きやすい任意のテーマでお願いします。シリーズ名は「水利遺産探訪」ですが、「排水」や「干拓」に関連したものや、比較的最近のものを扱っていただいてもかまいません。お近くや過去携わったことのある水利施設等をテーマに気軽にご投稿下さい。

なお、投稿は何時でも受け付けておりますが、今回の京都の次は「江戸の水利遺産・遺構」がテーマのものを先ず掲載したいと考えています。分量の制限はございませんが、分割して掲載させていただくこともありますので、あしからずご理解頂ければ幸いです。

皆様の多数のご投稿をお待ちしております。

水土文化研究部会第3回研究会
「先人たちの 水土の知 もの・ひと・こころ」の開催について(第2報)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



農業土木学会は、平成14年にビジョン「新たな 水土の知 の定礎に向けて」を策定し、水と土と人を対象としてきた農業土木の知識・技術体系を新しい時代にふさわしいものに発展させるべく、従来以上の広い枠組みとして新たな 水土の知 を提唱しています。

時代の転換期にあって、現在の「水土」を形成してきた先人の智慧や技術的伝統に目を向け、さらに視野を広げて、「水土」を健全に維持運営するために培われてきた地域の有形・無形の資源に現れる 水土の知 の広がりについて認識を深めるため、下記のとおり研究会を開催いたしますので、お知らせします。

記

1. 日時 平成18年2月24日(金) 13:30~17:00
2. 場所 虎ノ門パストラル・新館5F「ローレル」
〒105 0001 東京都港区虎ノ門4-1-1
☎03 3432 7261(代)
3. テーマ 先人たちの 水土の知 もの・ひと・こころ
プログラム
講演
「水土の知 とは何か 技術史の立場から」
(独)農業工学研究所 松本 精一
「水土のひと・こころ」 國學院大学 小川 直之
「水土の知 はおもしろい」

(株)オルタナティブコミュニケーションズ 金子 照美
パネルディスカッション
パネラー+コーディネーター
(国土交通省道路局 広瀬 伸)

4. 参加費 無料

5. 参加申込および連絡先

〒305 8609
茨城県つくば市観音台2-1-6
(独)農業工学研究所農村計画部集落計画研究室(担当 山下)
☎029 838 7668 FAX: 029 838 7609
E-mail:yamash@affrc.go.jp

6. 参加申込要領

整理の都合上2月15日(水)までに以下の要領にてお申込み下さい。

氏名 _____ (CPD 番号 _____)
所属機関 _____
所在地 _____
電話番号 _____
FAX 番号 _____

*部会員以外の方も参加できます

*今回は(社)土地改良建設協会研修会との連携行事となっております

平成18年度第28回現地研修集会のお知らせ(第1報)

農業土木学会農村計画研究部会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



農村計画研究部会では、下記のとおり平成18年度第28回現地研修集会を開催いたします。開催県の優れた事例を見ることができ、農村整備計画の実務担当者に変好好評です。どなたでも参加できます。

なお、詳細につきましては、決まり次第、学会誌やホームページ等でお知らせします。

記

テーマ: 水土で築く豊かな環境 阿蘇の取り組みに学ぶ (仮)
日程: 平成18年9月7日(木) 研修集会
8日(金) 現地検討会
会場: 熊本テルサホール(熊本県熊本市)

水資源学シンポジウムの開催について(第2報)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. テーマ 世界の水問題解決に向けた日本の挑戦(仮題)
2. 期日 平成18年3月7日 10:00~17:00
3. 会場 日本学会会議講堂
(東京都港区六本木7-22-34)
4. 主催 日本学会会議, 水文・水資源学会, 国土交通省
5. 後援(予定) 農業土木学会他15学協会

6. 趣旨

2006年3月にメキシコで第4回世界水フォーラムが開催される。前回2003年にわが国で開催された第3回世界水フォーラムでは、閣僚宣言、水行動集などの成果がさまざまな形でまとめられ、その後さまざまな主体が水問題解決のための活動が展開されている。しかしながら2004年8月にUNICEFとWHOが発表した報

告書によれば、上水道や井戸などの安全な水を利用できない人口は2002年に世界全体で約11億人もいるなど、依然として世界の水問題は主要な国際問題の一つとなっている。

シンポジウムでは、第4回世界水フォーラムに先立ち、水問題の各分野でのわが国の最新の取組みや研究成果を確認した上で、日本の水資源学、水資源管理技術が果たす役割について議論する。

7. プログラム

10:00 開会(総合司会 渡辺 紹裕 総合地球環境学研究所教授)

挨拶 大垣眞一郎 日本学術会議副会長

挨拶 仁井 正夫 国土交通省水資源部長

10:15 基調講演

「第4回世界水フォーラムに向けて」

尾田 栄章 日本水フォーラム事務局長

11:00 報告講演 I

1. 水問題の国際性と日本の取組

中山 幹康 東京大学教授

2. 世界の水災害の防止・軽減に向けて ICHARM 設立の背景と課題

寺川 陽 土木研究所ユネスコセンター設立推進本部長

3. 発展途上国における灌漑管理の現状と農民の参加の実現

佐藤 政良 筑波大学教授

12:15 昼食休憩

13:30 報告講演

4. いまそこにある危機(途上国の水と衛生)と、適

正技術の国際共同開発

原田 秀樹 長岡技術科学大学教授

5. アジア地域における流域水管理の現状と課題

砂田 憲吾 山梨大学大学院教授

6. つながり、広がる水の課題 国内外での取材報道から

佐藤 年緒 環境・科学ジャーナリスト

14:45 休憩

15:00 総合討論

コーディネータ 楠田哲也 九州大学教授

パネリスト 石川 幹子 慶応大学教授

中山 幹康 東京大学教授

寺川 陽 土木研究所ユネスコセンター設立推進本部長

佐藤 政良 筑波大学教授

原田 秀樹 長岡技術科学大学教授

砂田 憲吾 山梨大学大学院教授

佐藤 年緒 環境・科学ジャーナリスト

16:50 挨拶 池淵 周一 水文・水資源学会会長

17:00 閉会

8. 定員 250名

9. 参加費 無料

10. 問い合わせ先

国土交通省水資源部水資源調査室

〒100 8918 千代田区霞が関2 1 2

☎03 5253 8390 FAX 03 5253 1582

E mail mizcho@mlit.go.jp